

横につながる委員会

委員長面接が始まりました。先日決定した生徒会執行部が委員長候補者と面接を行い、委員長を任せる人物を決定していきます。私も興味がありますので、極力同席することにしています。

さすが委員長をやるうとして生徒たちです。それぞれの担当でやりたいことやそれを進める手立てをしっかりと持って、堂々と発言していました。大変頼もしく感じました。その一方で次のようなことも思いました。

委員長として任された分野でこれまでの活動を一層充実させたり、新しい取り組みにチャレンジしたりすることはすばらしいことですが、ぜひ委員長が横につながってほしいとも思います。

「これは○〇委員会が担当で、あれは△△委員会が担当」というように担当があるのが委員会活動です。しかし、学校生活には、複数の委員会が連携して働きかけるとより効果が出そうなのがあります。「これは□□委員会の担当だから、私たちには関係ない」と決めつけて取り組むのではなく、「□□委員会が取り組んでいることに、私たちの委員会もこの点からも協力しよう」となれば、生活がどんどん充実していくことでしょう。

例えば、予定を書くホワイトボード。そこに書かれるのは、公の文字です。つまり、言語環境の一つです。勝手気ままに書くのではなく、だれが目にしても心地よい筆跡である必要があります。そういう意味で言えば、環境委員会が動いてもおかしくありません。

また、学習の内容を書くということから、その書かれた内容が適切かどうかという点において、学習委員会は気にするべきでしょう。学習内容の欄に「続き」などと書いてあれば、書き直さるべきです。欠席者の存在を無視した配慮のない書き方だと私は思います。さらに、教科係の仕事が全うできているかどうかという点においては、教科係長や学級執行部との連携も必要になってきます。このように、一つのことについていろいろな角度から迫ることが生活を充実させることにつながります。

雑巾の掛け方が乱れていたら、どの委員会が動きますか。掃除関係だから環境委員会ですか。整理整頓という点からいうと生活委員会も動くべきではないですか。乾きにくい掛け方だったら雑菌が増え不衛生なので、保健委員会が注意を促すべきではないですか。配膳中におしゃべりがあつたらどうですか。給食委員会ですか。保健委員会は動かなくてもよいですか。約束が守れないといけないということでは、生活委員会が出てもよいと思うのですが。

まだまだたくさんありますよ。私はいつもそういう見方をしています。とにかく、「委員会を担当」ということも大切にしながら、柔軟に学校生活を見直すことです。与えられたことしかやらない、決められたことしかやらないのは、主体的とは到底言えませんからね。